たけべ中学生だっぴ×たけべ部　活動紹介

たけべ中学生だっぴ

2017～毎年開催。だっぴは、様々な大人や大学生との出会いを通じて多様な価値観に触れ、自己肯定感や将来像を描く力を育むとともに、地域企業・団体の継続的な参画により、初参加者を支えるグループトークリーダーの育成にもつながっている。

コロナ禍中のたけべ中学生だっぴ

コロナ過中のだっぴは全員がマスク着用、大型の扇風機を導入するなど、空気の循環対策が行われる中での開催となった。（写真左・中）だっぴ開催前には、大人の参加者による予行練習としてグループワークが行われる。（写真右）

たけべ部（放課後だっぴ）

2018～月に一回以上開催。現在のたけべ部は中学生の主体性を重視する形に定着しているが、初期は『地域の大人と話す』ことを目的とし、地域の大人の話を聞き質問する『たけべ塾』や、小規模な『放課後だっぴ』など、だっぴを経験した中学生の『もう一度やりたい』という声に応える取組を中心に実施していた。

たけべ部（建部駅清掃）

建部駅の清掃活動は当初から清掃自体を目的としたものではなく、『建部を盛り上げるにはどうすればよいか』という問いに対し、中学生が『駅にカフェを作りたい』『プリクラを置きたい』と発想したことがきっかけで始まった。『現状の駅ではまずい』との気づきから清掃に取り組み、そこから現在の『中学生主体』のたけべ部へと発展した。

たけべ部（福渡さんぽ…左・中、ＰＲ動画制作…右）

「福渡さんぽ」の福渡は、建部町地域にある福渡という地名から。地域の魅力を掘り起こすため、写真を撮って自分の足で歩いてみる取組。「ＰＲ動画制作」は、観光列車SAKU美SAKU楽がＪＲの津山線を走ることになったことがきっかけではじまった。

たけべ部マルシェ出店準備（たこ焼き練習…左・中、お店の看板と飾り付け…右）

たけべ部マルシェ出店

たけべ部マルシェ出店打ち上げ（左・中）、**売り上げ一部を花火大会へ寄付**（右）

2024年のたけべ部では、たけべマルシェの飲食出店に際し、メニューや価格の決定、看板制作、調理練習など、中学生にとって多くの初めての経験を伴う活動を中学生が自ら選んできた。その成果として得られた売上の使途も自らが決定し、一部を打ち上げに充てたり、次世代のたけべ部のための活動資金として残したり、あるいは建部町納涼花火大会の実行委員会へ寄付するなど、ここでも中学生に主体的な判断を委ねている。中学生自らが資金の使途を決定する仕組みを設けている理由は、学校教育において現金の取扱いが困難である一方、実体験を通してこそ金銭の価値や重みを理解できるとの考えに基づくものである。